

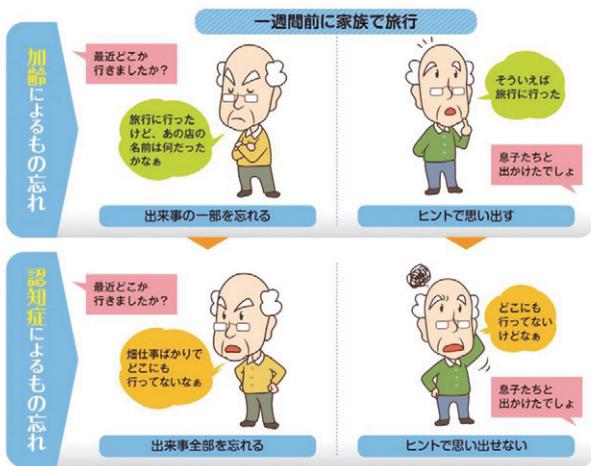
『認知症とはどんな病気か ご存じですか?』



認知症看護認定看護師 谷川 裕子

皆さん、認知症とはどのような病気かご存じでしょうか? 認知症の症状は多くありますが、物忘れを主症状として日常生活を今までのように過ごすことが難しくなった状態のことを言います。物忘れは、加齢による物忘れと認知症による物忘れがあります(図1参照)。

認知症との違いは、記憶障害を認めるけれど、日常生活機能は正常であることが特徴となります。軽度認知障害のチェックシートを資料として載せています(図2参照)。



【図1】 出典:おおい認知症情報サイトおれんじより引用

加齢による物忘れは、体験の一部を忘れヒントを与えると思ひ出すことができます。認知症の疑いがある物忘れは、体験全体を忘れてヒントを与えても思ひ出すことができず物忘れの自覚がないという症状の違いがあります。

私は認知症看護認定看護師として認知症の方が当院へ入院した際に治療を安心して受けられるように多職種でチームとなって活動しています。今年度11月には『認知症について』をテーマに市民公開講座を開催しました。

MCI (軽度認知障害について)

近年、軽度認知症の段階で治療をすることが可能になっています。軽度認知障害は、自分自身で気づく自覚症状になります。日々の生活で約束事を忘れて、今までは問題なくできていた仕事や、作業にとまどうようになり、その影響から集中力、やる気が低下する症状があります。

【軽度認知障害のチェックシート】

- 同じことを何度も言ったり聞いたりする
- 物の名前が出てこなくなった
- 置き忘れやしまい忘れが目立ってきた
- 以前はあった関心や興味が失われた
- だらしくなった
- 日課をしなくなった
- 時間や場所の感覚が不確かになった
- 慣れた場所で道に迷った
- 財布などを盗まれたと思ひ込む
- 些細なことで怒りっぽくなった
- 蛇口やガス栓の締め忘れがある
- 複雑なテレビドラマが理解できない
- 夜中に急に起き出して騒ぐ

チェックして
みまごじよう!



【図2】 出典:国立長寿医療研究センター「認知症チェックリスト」

気になる方はチェックしていただき、当てはまる症状が3つ以上あればかかりつけ医、または専門医受診することをお勧めします。来年度も市民公開講座を開催する予定なので、ぜひ多くの方に参加してほしいと思っています。

入院することでの認知症への影響

認知症のある方が入院すると慣れた生活の場と環境が大きく変わるため不安が強くなります。鍵や財布、携帯電話がどこにあるか分からなくなり帰ろうとしたり、周りには知らない人達ばかりでソワソワして落ち着かなかったり、家と違い刺激が少なくて昼と夜が逆転することもあります。当院では少しでも安心できる環境を提供するため、入院時には普段使用している時計やカレンダーを持ってきてもらうようお願いしています。時間や日付の認識を補い、カレンダーには入院した日や手術を受けた日、退院予定日などを記載させてもらい安心への支援の目的で持参してもらうように説明させてもらっています。今後も安心して入院生活が過ごせるように活動を継続していきたいと思ひます。